



いらか ぎ じゅく

かわら 徳舩瓦店

瓦を通じて伝えたい事～いつまでも「瓦」ない技と心～



徳舩秀治さん

当コーナーでは、商品の売上の一部が京町家まちづくりファンドへの寄附となる寄附付き商品を取り扱っていただいている企業の皆様方の、京町家や京都のまちづくりに対する思いをご紹介します。

今回は、嵯峨野の徳舩瓦店の代表、徳舩秀治さんにお話をうかがいました。徳舩瓦店では、国宝社寺の瓦の葺き替えなどにも携わる一方で、後世に技と心を伝えるため、「葺技塾」として全国から塾生を受入れています。また、一般の方に瓦の文化を伝えたいとミニチュア鬼瓦の販売や製作体験も行っています。

瓦について教えて下さい

仏教とともに瓦が伝えられて以降、瓦は単に風雨から家を守るだけでなく、魔除けや厄除けのために動物や植物などを表した瓦が屋根に飾られるようになりました。大きなお寺では、何十種類という瓦が使われています。鬼瓦の鬼も口を開けたもの、閉じたもの（阿吽）など色々ありますし、ぜひ一度興味を持って瓦を見上げてみてください。

今は瓦の製造も工業化され均一になっていますが、昔の瓦は手作りでねじれていました。不揃いにねじれた瓦を上手く組み合わせる事で、均一な瓦で葺くよりも温かみや、どしりとした雰囲気など表情が生まれるのです。それは当社の方針にも通じるものがあり、「色々な考えを持った職方がいて、求めるところは一緒」というのが一番良いと思っています。今でも茶室や数奇屋、寺社などにはねじれた瓦が良いのですが、それを扱える職人は少なくなっています。

京町家まちづくりファンドにご協力いただいた理由は？

もっと屋根に注目してもらい、鍾馗さんの由来*や瓦の歴史的な事柄を知っていただき、瓦を身近に感じていただければと思います。屋根に鍾馗さんを飾るのは京都が発祥で、瓦屋根の家がほとんどだった頃にはたくさんの鍾馗さんが並んでいましたが、今では詳しくご存知の方は少ないのではないのでしょうか。家を建てるなら屋根は瓦にしたいと思っていただければ良いですね。一つの通りの全ての家の屋根に鍾馗さんが並ぶようになれば素晴らしいと思います。

※唐の玄宗皇帝の夢に現れ鬼を退治したとの故事から、魔除けとして古くから信仰される。京町家の屋根に飾るのは、三条鴨川の薬屋が、向かいの家の屋根の鬼瓦からの災厄を防ぐために屋根の上に乗せたのがはじまりといわれる。



徳舩瓦店のショップ「ILACA」の店内。色々なミニチュア瓦が並ぶ

京都や景観への思いを聞かせて下さい

昔の京都の小学校はみんな瓦葺きの木造校舎で、木の床を自分たちで手入れしたりしていました。そのような事を通じて、物を大切にすることが自然に身についていたのです。今はコンクリートの建物に変わってしまい、子供たちもその親もそれが当たり前になってしまっています。そんな環境では瓦を身近に感じる事はできないでしょう。木でも畳でも、手入れをして使い続ける事が大切だと思います。私は瓦屋ですので、瓦を通じてそのような事を伝えていければと思っています。

◆寄附付き商品の内容：
「京町家まちづくり鍾馗」
代金の一部が、京町家の再生と京都らしい町並みの保全に寄附されます。
販売先：葺技塾 徳舩瓦店株式会社
Kawara Craft Studio ILACA
京都市右京区嵯峨天龍寺車道町
10番地 JR嵯峨嵐山駅前
☎075-861-0314



平成29年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体のみなさま

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

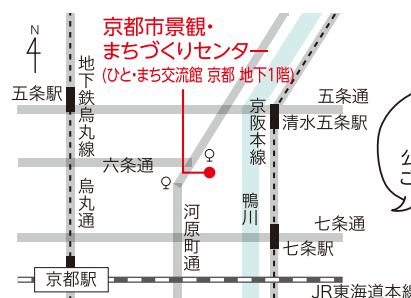
〒600-8127
京都市下京区西木町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704
E-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp
H P: http://kyoto-machisen.jp



Facebook



HP



センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

ニュースレター 京まち工房 第81号 2017年12月 編集・発行 公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター



京まち工房

81

パートナーシップで進めるまちづくり



特集

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター
設立 20 周年記念特集
(P2-6)

祝！まちセン20周年



私と京都／スタッフのつぶやき

7

京都市景観・まちづくりセンター



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

財団設立20周年を迎えて



平成29年10月1日、京都市景観・まちづくりセンター（以下、まちセン）は、おかげさまで財団設立20周年を迎えることができました。

まちセンは設立以来、住民・企業・行政のパートナーシップのまちづくりを推進するための橋渡し役となるべく、「地域まちづくり活動の促進」および「地域と共生する土地利用の促進」を2本の柱として取組を推進してまいりました。

まちセンが活動のフィールドとしている京都は、豊かな自然環境に恵まれ、独自の歴史と文化が息づく、世界にも類を見ない都市です。まちセンは、これまでも、そしてこれからも、京都が京都らしさを失わず、住み続けたい、帰ってきたいと思えるまちであり続けるための

お手伝いをしていきたいと思っております。

これまでの20年と同様、これからのまちセンも皆様の温かいご支援をいただけるよう、職員一同気持ちを新たに、業務に取り組んでまいりたいと考えております。

これまでの20年がそうであったように、これからの20年も、京都にさまざまな変化や動きが起こることは想像に難くありません。まちセンが、京都という、変化の中にあってもなお変わらぬ輝きを放つ「まち」とともにある存在であり続けられるよう、皆さんと一緒に歩み続けたいと思います。

これからもまちセンをどうぞよろしくお願いいたします。

京都市景観・まちづくりセンター これまでの主な歩み

平成 9年（1997年）	京都府知事の設立許可を受け、財団法人「京都市景観・まちづくりセンター」を設立。 約600名の市民ボランティアなどの協力を得て、まちセンを事務局として、第1回京町家まちづくり調査を実施。（実施期間：平成9年12月～11年4月）
平成15年（2003年）	「ひと・まち交流館 京都」（下京区）開館に伴い、同館地下1階に事務所移転。
平成16年（2004年）	約260名の市民ボランティアなどの協力を得て、第2回京町家まちづくり調査を実施。（実施期間：平成16年1月～3月）
平成17年（2005年）	「景観法」に基づき、全国初となる景観整備機構の指定を受ける。 京町家の保全・再生・活用を促進する事業を行うための基金「京町家まちづくりファンド」設立。
平成19年（2007年）	財団設立10周年を迎える。
平成20年（2008年）	京都市、立命館大学、まちセンが実施主体となり、延べ約3,300名の市民ボランティアなどの協力を得て、第3回京町家まちづくり調査を実施。（実施期間：平成20年10月～22年3月）
平成24年（2012年）	公益財団法人に移行。
平成25年（2013年）	第2回まちづくり法人表彰「まちの活性化・魅力創出部門」において国土交通大臣賞を受賞。 米国「Travel+Leisure」誌「2013 グローバル・ビジョン・アワード【文化部門】」を受賞。
平成29年（2017年）	財団設立20周年を迎える。



「ひと・まち交流館 京都」開館



第1回京町家まちづくりファンド委員会



10周年交流会の様子

財団設立20周年記念事業 主なイベント一覧

財団設立20周年を記念し、「つなぐ、つながる、こえていく」をテーマに記念事業を実施中。さまざまなイベントを順次開催しております。これまでさまざまな場面でまちセンがお世話になった方々にご協力を仰ぎながら、新たなテーマを設定し、多彩

な講師の皆様にお越しいただくなど、20周年ならではの試みを行っています。また、これまでの京都のまちづくりとまちセンの歩みをまとめる記念誌も編纂中です。

1.シンポジウム「文化による地域創生とまちづくりの未来」

日時	平成29年11月25日（土）13時30分～16時30分
場所	ひと・まち交流館 京都 2階 大会議室
基調講演	近藤 誠一氏（近藤文化・外交研究所代表、元文化庁長官）
特別講演	吉良 森子氏（moriko kira architect主宰、在オランダ建築家） 岩村 水樹氏（Googleアジア太平洋地域ブランド&マーケティングマネーjingディレクター兼日本法人専務執行役員CMO）
司会	若村 亮氏（株式会社らくたび代表取締役、京都学講師）



会場の様子

平成30年3月発行の「京まち工房82号」にて詳細を紹介予定



2.トークライブ

第1回「ものづくりからみる、これからの暮らし」	日時	平成29年 9月27日（水）19時～21時
第2回「『働く』がつくるまちと文化」	日時	平成29年10月11日（水）19時～21時
第3回「小さなシェアが生む力。」	日時	平成29年10月25日（水）19時～21時

P4にて内容の詳細を紹介しております

3.まちセンビブリオバトル キックオフイベント

「ひと・まち交流館 京都」地下1階の図書コーナーに設置されている巽和夫記念文庫を活用し、読書週間にあわせて、ビブリオバトル（知的書評合戦）を開催しました。記念すべき初回は、ビブリオバトルの考案者である谷口忠大氏より、ビブリオバトルとまちづくりについてご講演いただいた後、京都内外から12名の発表者が「景観・まちづくり」に関するオススメの本を持ち寄って集まり、熱いバトルを繰り広げました。

日時	平成29年11月4日（土）13時30分～16時
場所	京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム
内容	①講演「ビブリオバトルとまちづくり」 登壇者：谷口 忠大氏（立命館大学情報理工学部教授、一般社団法人ビブリオバトル協会代表理事） ②参加者全員でビブリオバトル コーディネーター：谷口 忠大氏、大島 祥子氏（スーク創生事務所代表）



谷口忠大氏



ビブリオバトルの様子

4.歴代課長座談会

日時	第1回：平成29年9月5日（火）19時～21時 第2回：平成29年9月6日（水）19時～21時
----	--

5.歴代次長座談会

日時	平成29年12月22日（金）19時～20時30分
----	--------------------------



特設ホームページ内まちセン20周年日記「まちセンスタッフがゆく」にて、随時イベントレポートを公開しています。ぜひご覧ください！

<http://kyoto-machisen.jp/20th/diary>



平成30年新春以降も、順次開催します！

6.新春公開座談会

「夢を語る－京都の景観・まちづくり・京町家」

まちセン設立当初から評議員・理事を務める5人の有識者の方々が、まちセンの20年間の事業や京都のまちづくりについて振り返ります。また、明日の京都のまちづくりの理想の姿や、そのために必要な取組などについて自由に語っていただきます。

日時	平成30年1月13日（土）14時～16時
場所	ひと・まち交流館 京都 2階 大会議室
登壇者	栗山 裕子氏（WIN一級建築設計事務所主宰） 高田 光雄氏（京都美術工芸大学教授 工芸学部長） 東樋口 護氏（公立鳥取環境大学名誉教授） 長谷川 和子氏（株式会社ケイアソシエイツ代表） 宗田 好史氏（京都府立大学副学長）

7.京町家まちづくりファンドまつり

①オープンハウス

平成30年1月より順次開催。

②京町家まちづくりファンド感謝祭

日時	平成30年2月10日（土）13時30分～16時
場所	新島会館2階 大ホール （京都市上京区寺町通丸太町上る）

編纂中！

8.20周年記念誌作成

1990年代以降の京都市の施策の変遷を踏まえ、まちセン設立から20年間の景観・まちづくりの取組を地域まちづくり、京町家保全・再生・活用の動向などの観点から振り返り、記念誌として作成、関係者に配布します。

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター設立20周年記念事業

「とおく、未来を語る。 まちセンの、トークライブ。」

3回連続開催

20th
設立
20周年
Anniversary

登壇者の自由な発想のもと、おしゃべりや対談が繰り広げられた「トークライブ」。

ものづくり、金融、書店、教育・人材育成、デザイン、地域経済……。20周年記念事業をきっかけに、これまで「ぜひ、お目にかけたい、お話をうかがいたい」と思っていたテーマや、その分野で活躍される方々にご登壇をお願いしました。3回シリーズ、総勢6名の多様な背景を持つ登壇者の皆さんに、ご自身の思いやご経験などをもとに、これからの京都や社会について会場の皆さんから出される質問に答えつつ、議論していただきました。

今回ご登壇いただいた皆さんに共通していたのは、ローカルや地域に根づくものを大事にする、使い手や担い手の文化を育てるという視点です。そして、皆さんがそれぞれの立場や役割の中で、まちや暮らし、あるいは社会に対して「自らができることは何か」を、未来を見据えながら考えている姿勢や思いです。

登壇者から発せられる「ライブ」な「トーク」を受けて、ご参加いただいた皆様に「今、まちのために自分に何ができるだろう」と考えていただくきっかけになれば、そんな思いから開催しました。

第1回「ものづくりから見る、これからの暮らし」

日時 平成29年9月27日（水）19時～21時

登壇者 鳥屋尾 優子氏（ワコールスタディホール京都館長）
北林 功氏（COS KYOTO株式会社 代表取締役）

場所 ワコール新京都ビル ワコールスタディホール京都2階

第1回目は、異なる立場から「京都のものづくり」に携わるお二人として、ワコールスタディホール京都館長の鳥屋尾優子さんと、COS KYOTO株式会社代表取締役の北林功さんにご登壇いただきました。

最初に鳥屋尾さんから、ものづくり企業であるワコールの理想と目標である、「世の女性を美しくすることによって、広く社会に寄与する」という理念、そしてものづくり企業として「ライフスタイルや価値を提供」してきた歴史をご紹介いただきました。次に北林さんから「文化ビジネスをコーディネートする」というタイトルで、自身の活動についてご紹介いただき、世界でそこにしかないものを世界の基準やルールに基づいて組み合わせ、形にして紹介する、その際に重要なのが日本ならではの美意識である、というお話をいただきました。

その後の対談では、トークのテーマである「美意識」を日常的に持つことについて語られました。鳥屋尾さんからは「京都は美しい都市であり、その美しさが日常の生活の中にもっと落ちていけば。日常の京都にある美しさに気づくことで生活が豊かになる」といった指摘がありました。北林さんからは「京都は個々人が素晴らしい



鳥屋尾優子氏

北林功氏

美意識を持っている。崩れてしまった町並み景観をすぐに変えることはできないが、例えば日常の道具にこだわる、周囲との調和を考えて少し我慢するといった身近な努力を続けていくことで美しくなっていくのではないかと問いかけがありました。お二人からは、美を特別なものとしてだけ捉えるのではなく、一人ひとりが「日常的に美を意識する」ことが重要であるとの意見が示され、参加者の皆さんが深くうなずく場面が見られました。

トークライブ終了後には交流会を開催し、お酒を片手に登壇者のお二人や参加者の皆さんで交流や意見交換を楽しみました。



ワコールスタディホール京都の開放的な会場にて開催

あわせて開催しました

京都市景観・まちづくりセンター設立20周年記念事業

歴代課長座談会

日時 第1回：平成29年9月5日（火）
19時～21時（地域まちづくり関連課長）

第2回：平成29年9月6日（水）
19時～21時（京町家関連課長）

場所 京都市景観・まちづくりセンター
ワークショップルーム

これまでの管理課長、事業課長という現場の最前線の指揮者を経験された方々にお集まりいただき、当時どのようなことを感じ、事業を創り出し育てる工夫をし、現場からどのような経験を得られたかについて具体事例に即して語る座談会です。同時に現場で活動する若い職員へ、心構え、現場ならではの喜びや苦勞などを率直に伝えていただきました。

第2回「『働く』がつくるまちと文化」

日時 平成29年10月11日（水）19時～21時

登壇者 山口 一剛氏（朱雀協働計画／京都信用金庫 朱雀支店 支店長）
古賀 鈴鳴氏（『世界文庫／世界文庫アカデミー』主宰、デザイナー）

場所 京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム

第2回目は、「新たな活動や働き方を模索する人たちを支援する活動」をされているお二人として、京都信用金庫朱雀支店支店長・山口一剛さんと、「世界文庫／世界文庫アカデミー」主宰・古賀鈴鳴さんにご登壇いただきました。

最初に山口さんから、京都信用金庫のコミュニティバンクとして地域で活動する人々を応援するという役割や、「朱雀地域を観光マップの真ん中へ」といったユニークな目標のもと取り組まれている「朱雀協働計画」の活動内容などをご紹介いただきました。次に古賀さんから、「世界文庫／世界文庫アカデミー」の活動についてご紹介いただくとともに、活動の拠点としての書店とアカデミーを京都の北に位置する紫野の地に据えたいきさつや背景などもご紹介いただきました。

対談では、お二人への質問カードをもとに、今後の活動のこと、何かを始めようとする人々へのアドバイスなど、多岐にわたるお話をいただきました。お二人の活動姿勢の共通点は、地域の人々、活動をともにする人々との交流を大切にすること、「働く」ことが「おもしろい」に直接つながっていることでした。「おもしろそ

第3回「小さなシェアが生む力。」

日時 平成29年10月25日（水）19時～21時

登壇者 紫牟田 伸子氏（『日本のシビックエコノミー』編著者）
荒木 勇輝氏（Tera school（NPO法人寺子屋プロジェクト）代表）

場所 京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム

最終回となる第3回目は、「シェア」が要となる活動をされているお二人として、「日本のシビックエコノミー」編著者の紫牟田伸子さんと、NPO法人寺子屋プロジェクト代表の荒木勇輝さんにご登壇いただきました。

最初に紫牟田さんから、「シビックプライド」という考え方と、デザインプロデューサーとして関わる地域プロジェクトの事例をご紹介いただきました。また、「シビックエコノミー」が持つ、さまざまな形の参加や関与のあり方が可能であることで成り立つという特性についてお話をいただき、市場経済の外の人やモノを包含しうる仕組みについてご紹介いただきました。次に荒木さんより、「Tera school」の取組を、ご自身の経験や目的意識とともにご紹介いただき、「寺」という場所を選んだ理由や「子どもと大人の学び合い」といったユニークな活動が目指すものについてお話をいただきました。荒木さんの活動の根幹には、シェアをうまく機能させるためには「シェアされた力は、私心なく用いなければならない」という考え方があるということ、を、「ドラゴンボール」の「元気玉」を例にお話しいただいたことが印象的でした。

テーマに掲げた「小さなシェア」とは、負担や役割についてのシェ



山口一剛氏

古賀鈴鳴氏

うなことを考えている」人を深く知ろうとする姿勢を持ちつつ、「一緒に何かをやりたい」と思いながら交流するからこそ、お二人の周りにはどんどん人が集まり、それが地域にも良い影響を与えているという様子が見えました。

全く異なる背景・活動内容を持つお二人の対談から、「おもしろい」と感じる活動をし続けることが、結果的に「まちづくり」「地域づくり」につながっていくということが浮かび上がったのではないのでしょうか。



紫牟田伸子氏

荒木勇輝氏

ア、そこで得られる体験や共感についてのシェアなど、さまざまな形や意味が含まれますが、お二人の活動に共通するのは、「多様性」を大切にするという姿勢です。お二人の活動は、関わる人々を「こうしなければ」「こうあるべき」と型にはめることなく、できることから、できる範囲で、できる形で関わるができる仕組みや環境をつくる活動であり、地域や仲間全体の成長を目指すものだということを感じました。

お二人の明るく温かな人柄が会場全体を包み込み、共感が広がるトークライブとなりました。



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター 事業紹介

京町家に関する相談をお受けします「京町家なんでも相談」

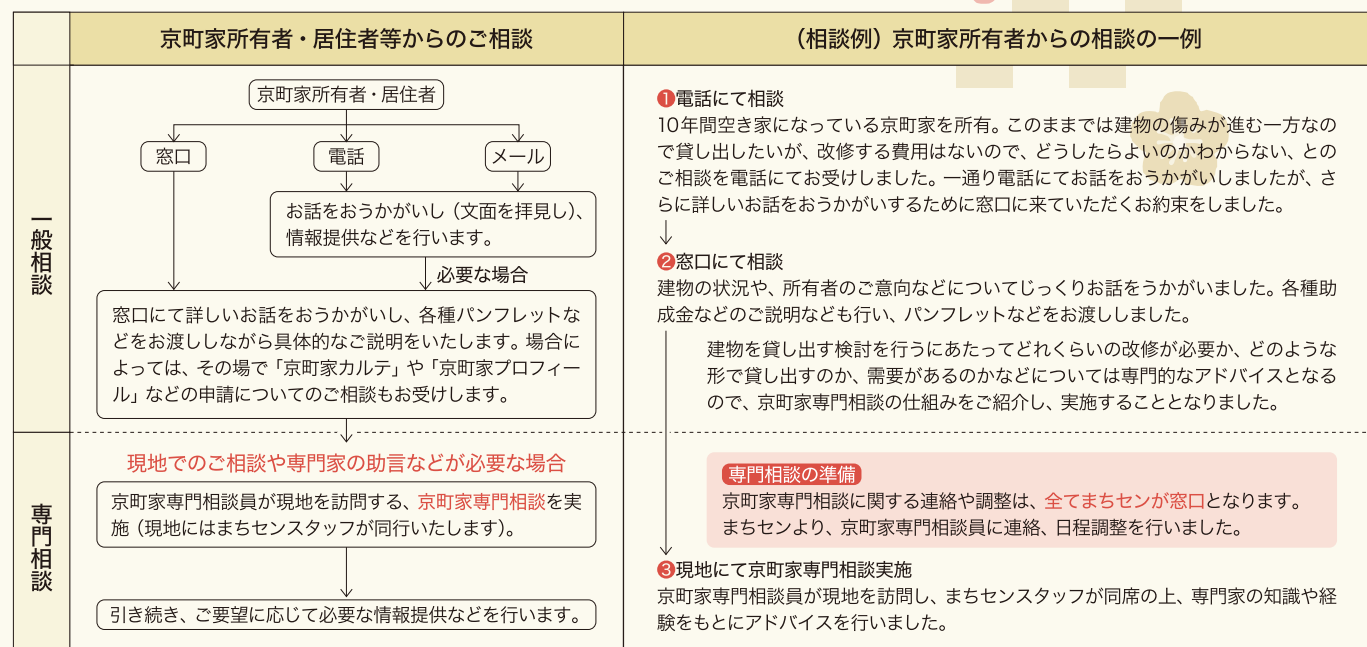
「相談すること」からはじまること、があります



京都市景観・まちづくりセンターが最も大切にしている業務、それは「相談業務」です。

まちづくりや古い建物について、話を聞いてほしいとき、詳しい情報がほしいとき、専門家のアドバイスがほしいとき、「どうしたら良いの?」と、誰かに相談したくなります。そんなときは、まちセンにご相談ください。秘密を守ること、料金の心配がないこと、これらは当たり前のこととして、専門家や行政の窓口とも連携しながら皆さんに寄り添います。

京町家なんでも相談の流れ



ご相談は無料です。

たくさんの方に相談窓口をご活用いただいています。まずはお気軽にお電話をいただくか、窓口にお越しください。

これまでの相談実績

- まちセン設立以来の相談件数累計(20年間)
 - 寄せられたご相談 約7,450件
 - うち、専門相談を実施した件数 約560件
- 平成28年度(昨年度1年間)
 - 寄せられたご相談 約520件
 - うち、専門相談を実施した件数 約30件
 - 京町家等継承ネット 京町家・空き家相談会 専門相談 約40件
- 平成29年度(今年度上半期のみ)
 - 寄せられたご相談 約270件
 - うち、専門相談を実施した件数 約20件



次号では、「地域まちづくり相談」についてご紹介いたします。

私と京都



京都市 都市計画局長
鈴木 章一郎

「丸竹夷」、効果はいつ?

今年の4月から、京都市の都市計画局長としてお世話になっている。

生まれは愛知県で、これまでの仕事は東京が多かったので、京都との直接のつながりは、残念ながら乏しかった。かつて赴任していた某地域で広報関係の仕事をしていた関係で、「全国魅力度ランキング」という、京都の人は誰も知らないが普通の自治体の広報は意外に一喜一憂させられるランキングで、「京都はいつも1位だな」という、仰々見る印象は持っていた。

赴任する際に、職場の先輩などが、シャレも半分で当時流行っていた井上章一さんの「京都嫌い」の本をくれたのだが、たまたま重なったりして3冊にもなった。せっかくなので面白そうなところは3回読もうと思って読んでいたら、その甲斐もあって結構中身を覚えてしまい、「周りの人への対応を間違えてはいけない」と、えらく緊張して職場に初出勤したことを覚えている。

これもせっかくなので、覚えた本の内容をスピーチの場で使ってみようと思って『白足袋の方には逆らうな』と書いてあったのに驚いて」と始めたら、目の前の市長が白足袋を履いていて焦ったりした。

また、かつて京都に赴任していた同期が、「都市計画局にお世話になるのだったら、『丸竹夷』の通りの歌は覚えておかないと仕事にならんのか」と言うので、赴任前、ウェブサイトに乗っているややのんびりした調子の歌を通勤途中で

毎日毎日聞いて覚えたのだが、今のところ、覚えた歌詞の真価が華々しく発揮されたことはない。今後、じわじわとポディーブローのように効いてくるのではと密かに思っている。

赴任から半年が経ち、景観・まちづくりセンターの関係者の方や講座なども通じて、京都のまちがどうやって成り立ってきたか、なぜ京都のまち中には公民館がないのか、といったことを教えていただきながら、少しずつ、自分なりの京都像をつくらうともがいている。

その中で、事前に持っていたイメージとは大分異なるのが、人への印象である。もともとは、「クレバー」「余裕がある」という、どちらかというと、ひたすら上品なイメージを持っていたのだが、外から来た新しいもの(者・モノ)との上手な付き合い方であったり、まちとまちとの関係でも、本当のトップ同士は面と向かって事は構えないという工夫であったりと、「大事なものを次世代に伝えていくために必死で知恵を絞り、とにかく結果を残す」という、人や地域から感じられる執念のようなものに対して、もともと持っていた印象とのギャップに驚き、勉強させられる毎日である。

今年は、明治維新から150年、新景観政策から10年と、節目の時期とされている。こういうタイミングでお世話になっている幸せと責任を感じながら、京都のまちと人の魅力に翻弄されつつ、手探りで一步一步進んでいきたいと思っている。



スタッフのつぶやき

スタッフJ.K.

まちセンでは町家の調査に出ていることが多いのですが、興味深い建物に出合うとついはいまりこんでしまいます。仕事以外では「京町家に残る家庭用防空壕」について調べていて、今も町家調査へ行きますと、まず防空壕が残っていないか見てしまいます。

ほかにもいろいろ、歴史・音楽・観劇・バスケット観戦・日本酒……など興味はつきません。何事も「好き」の積み重ねで、興味がわいて楽しむことが、仕事も家庭も遊びでもプラス思考で良



い連鎖を生み出しているようで、友人間では「ポジティブ部」としてどんなささいなことでも楽しむように心がけています。

一番ささいなのは「空を見上げる」こと。とても好きです。自分を「ごきげん」に保っておくのが心に余裕を生む秘訣。「ごきげん」の素＝「好き」をさらに増やしていきたいと思っています(まだ増やすの? という声が聞こえてきますが気にしない!)。